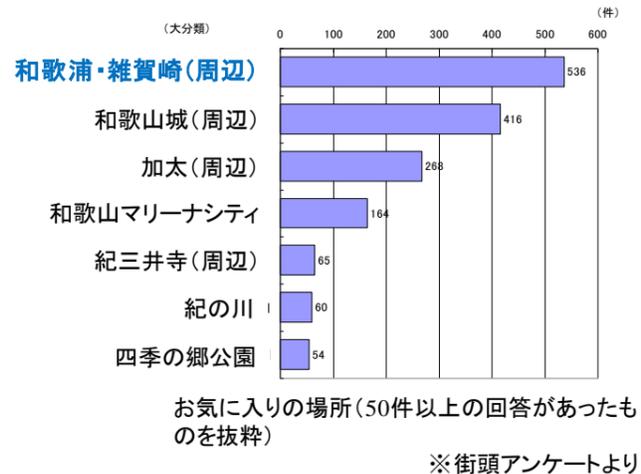
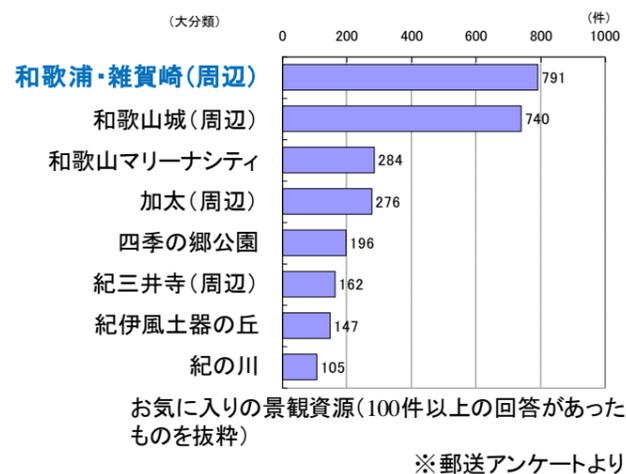


# 雑賀崎・田野・和歌浦地区 景観まちづくりワークショップ 最終成果

## 1. ワークショップの趣旨

### (1) 景観重点地区の指定に向けて

雑賀崎・田野・和歌浦地区は本市でも特徴的な素晴らしい景観を有しており、市民にとってもお気に入りの景観として高い評価を得ています。



しかしながら、場所によっても景観の特徴・問題や住民の思いは様々で、どうしていくかも異なります。そこで、景観の特徴を把握し、地区を幾つかにゾーニングし、それぞれの場所でどのような景観がふさわしいのか、そのために何をしていくべきか、を話し合うこととしました。

- ・ 建物の高さはどのくらいが良いか？
- ・ 建物や看板の色合いはどんなものがふさわしいか？
- ・ 景観を邪魔しているものは何か？
- ・ どこからの眺めを守っていくべきか？ …… など



市では、このワークショップでの話し合いの内容を踏まえた上で、景観重点地区の指定をめざして、検討を進めていきます。

### (2) 景観まちづくりに向けて

景観重点地区を指定したとしても、景観を守り作っていくためには、継続した話し合い、取り組みが必要です。



このワークショップをきっかけに、参加者と市とで継続して地区の景観まちづくりを話し合う場づくりを検討していきます。

## 2. ワークショップの参加者

雑賀崎・田野・和歌浦地区の連合自治会、地域の活動団体、公募市民 計30名  
コーディネーター 下村 泰彦 先生(大阪府立大学教授、和歌山市景観審議会委員)

### 3. ワークショップの開催経過

【平成23年度】

#### 第1回 1/21 (土) 14:00～ 和歌の浦アートキューブ多目的ホール 「自己紹介&個々の思いを引き出す」

参加者が4つの班に分かれて、自己紹介と、地区の景観の良いところ、気になるところや、ワークショップに期待することを出し合いました。

- ・ワークショップの趣旨・目的・内容等の説明
- ・ミニ講演「雑賀崎・田野・和歌浦地区の景観まちづくりに向けて」
- ・自己紹介ゲーム



#### 第2回 2/26 (日) 13:00～ 和歌の浦アートキューブ多目的ホール 「和歌浦地区の資源・問題点を探る」

和歌浦地区を対象として、地域の資源・問題点を話し合うとともに、現地を調査して、気づいた点や今後考えていくべき点を出し合いました。



#### 第3回 3/11 (日) 14:00～ 太公望 「田野・雑賀崎地区の資源・問題点を探る」

第2回同様に、田野・雑賀崎地区を対象として、地域の資源・問題点を話し合うとともに、現地を調査して、気づいた点や今後考えていくべき点を出し合いました。



#### 第4回 3/24 (土) 13:00～ 片男波公園健康館多目的室 「資源・問題点を共有し、どんなことを考えていったら良いかを話しあう」

この間ワークショップ・現地調査で明らかにした地域の資源・問題点を確認、共有した上で、これからどのように議論を深めていくべきか、について意見を交わしました。



【平成24年度】

#### 第5回 4/15 (日) 13:00～ 双子島荘 「勉強会1～先進事例に学び、これからの方向性を考える」

これまでに出されたテーマに関連する他都市の事例を学び、その上で今後の景観まちづくりの方向性について意見を交わしました。



#### 第6回 5/27 (日) 13:00～ 木村屋 「将来の姿と実現の手段/方法について話し合う①」

新たにグループを「まちの姿や目標について考えるグループ」と「活動の場づくりを考えるグループ」に分け直した上で、それぞれでどうしていったらよいのかを話し合いました。



#### 第7回 勉強会2

6/17 (日)  
13:00～

現在議論している地域でのルールづくりや活動の場づくりについて、すでに実践されているお隣の海南市黒江の取り組みの現地視察・学習会を行いました。



#### 第8回 7/7 (土) 13:30～ 双子島荘 「将来の姿と実現の手段/方法について話し合う②」

勉強会2を踏まえて、引き続き地域の将来イメージと、それを実現するためには、どのような手段/方法が必要かについて話し合いました。



#### 第9回 (最終回) 7/21 (土) 14:00～ 和歌山市勤労者総合センター 「発表会」

これまで話し合った内容について取りまとめを行い、参加した感想を発表しました。



つづく...

## 4. 意見交換を経て取りまとめた内容

### (1) 雑賀崎・田野・和歌浦地区 景観まちづくりの課題整理

#### 眺望の景観



- 海、砂浜、干潟、山、島、夕日などの自然の眺めが美しく、季節、時間によって変化する
- 高台からの調和したまちなみや、海越しに眺める漁村といったまちなみの眺めも美しい
- 眺めを楽しめる場所（眺望点）が幾つもあり、昔から親しまれている（万葉集など）
- 住民などの手でずっと守られてきている
- 眺望を楽しめるレストランがある

- 眺望を妨げるデザインの建物・看板がある（建物の壁・屋根や看板の色、高さ、意匠など）
- 放置された廃旅館などが眺望を妨げている
- むやみな高さの制限は住民の暮らしを妨げるので注意が必要である

#### ① まちの姿や目標を考える

##### 【1. 共通する財産である眺望をどう守っていくのか？】

- ・守るべき建物・広告物のルールは？
- ・大切にしたい場所（眺望点）は？ など

##### 【2. 障害するものに対してどう対応していくのか？】

- ・廃旅館、空き家などについてどう対処するか？
- ・所有者とどう話し合っていくのか？ など

##### 【3. 場所により異なる景観の特徴をどう守っていくのか？】

- ・それぞれでふさわしいあり方、ルールをどう考えるか？
- ・地域での良さを再確認し、生活や暮らしと共生したあり方をどう考えるか？ など

#### ② 活動の場づくりを考える

##### 【4. 景観まちづくりの活動をどう継続していくのか？】

- ・いろんな活動があり、どう連携させていくか？
- ・保全に向けてどう市と市民が連携していくか？ など

##### 【5. 地域の良さをどう発信、PRしていくのか？】

- ・訪れてよし、住んでよしの魅力を地域のブランドとしてどう発信するか？
- ・魅力を高めていく方法をどう考えるか？ など

#### 特徴的なまちなみの景観

##### 【田野・雑賀崎：特徴ある漁村・漁港の景観】



- 家が寄せ合って特徴ある漁村のまちなみをつくっている
- 漁業の風景が今も息づいている（漁師から直接魚を買える、旧正月に大漁旗が見られる）
- 人の暮らし（漁業も含めた生活）でまちなみが維持されており、地域のまとまり（結束力）も強い
- 田野・雑賀崎の景観は概ね共通しているが、違う特徴もある（建物の屋根並みなど）

- 不法投棄や管理できていない空き地が増えて、景観を損ねている
- 空き家が増えており、道が狭く建て替えができない状況でどうまちなみを守るか
- 高齢化、漁業の跡継ぎ不足が問題であり、どう地域を元気にしていくか

##### 【新和歌浦：旅館が建ち並ぶ景観】



- 旅館が海際に建ち並び、観光地として大きく栄え、遊歩道などの観光整備がなされた
- 章魚頭姿山、網代浜や蓬莱岩などのスポットがある

- 旅館が廃業し、そのまま放置されて景観を損ねている
- 維持・管理が行き届かず荒れた雰囲気のところもある
- 最近ではマンションや老人福祉施設への建て替えも見られる

##### 【和歌浦：資源が点在する景観、住宅地の景観、漁港の景観、昔のまちなみの景観】



干潟周辺

市町川南

市町川北

漁港

浜（片男波）

- 妹背山、不老橋など歴史的なスポットが集まり、名勝指定で保全の取り組みも進みつつある

- 格子状の道路に沿って、整った住宅地のまちなみが作られている（新しい住宅地）

- 狭い道ながら生活感のあるまちなみがある
- 寺社や古い建物も多く残っている

- 漁港が整備されており、漁業に関連する施設が集積している

- 砂浜があり、夏は海水浴客でにぎわっている
- 松林が連なる美しい風景がある

- 清掃が行われきれいに保たれているが、一部管理が行き届かなかったり、マナーの問題で景観が損なわれていたりするところがある
- 景観という観点からの意識が高いところとそうでない（意識しにくい）ところがある
- 地域の住民もこの地域の良さを再認識し、どうしていくかを話し合うべき

- ・歴史性をどう再確認していくか
- ・地域の住民と観光客などとの共生をどう図っていくか
- ・地域の住民にとっての関心事（防災等）とどう両立させるか

#### 景観まちづくりの活動



- 名勝指定によって知名度が上がりつつある
- 万葉薪能の会、クリーンアップ、夕日を見る会、トンガの鼻自然クラブなど、地域の景観、環境を楽しむ、維持していくための活動が続けられている
- 雑賀崎では、漁師に直接交渉して獲れたものを買うことができる（アジアカエビなど）など、ここにはかき魅力もたくさんある

- 天橋立のような良いイメージを発信していく必要（かつては海洋美日本一の称号も）
- 温かく迎え入れる雰囲気作りが重要
- 訪れる人が楽しめるような環境整備も必要（情報発信、サイン、遊歩道）
- いろんな活動があちこちであるものの、継続していくにはサポートが必要

(2) 雑賀崎・田野・和歌浦地区 景観まちづくりの取り組み方向 ~①まちの姿や目標を考える~

【1. 共通する財産である眺望をどう守っていくのか?】  
 ・守るべき建物・広告物のルールは?  
 ・大切にしたい場所(眺望点)は? など

**眺望点からの眺望を守るためのルールをつくる**

**意見の抜粋**

- ・時を経ても変わらない「海岸美や眺望」が和歌の浦の代表的な魅力
- ・海への眺望、海岸から見る山並み、紀伊水道に沈む夕日など風光明媚な景色を堪能できる
- ・眺望は毎日見飽きない美しい風景で、とりわけ自然の眺望が良く、和歌公園から干潟方面への眺望は格別
- ・てんぐ山からみた景色など、守っていききたい眺望があり、とりわけ眺望景観は重要
- ・景観を守るために、山の稜線を守る、屋外広告物や建物等の色の使い方を配慮するなどベースとなるルールがあって良い
- ・奠供山や妹背山からの「見下ろす」眺望を意識して、高さや屋根の色についてルールが必要
- ・田野・雑賀崎では、岬などの重要な眺望点からの景観はきちりと守り、その上で「県道から見える海への眺望を大切にしよう」という配慮を促すルールがいいのではないかと
- ・すでに建ってしまった建物には打つ手がなさそうなので、事前に届け出る(もしくは許可制にする)のがいい
- ・これから建つものの規制というよりは、今あるものを維持していくという考え方がありたい

**具体のアクション**

- ・和歌の浦全域で、眺望を守るルールをつくり、届出などを運用する(市)
- ・オススメの眺望点を推薦する(住民、市民など)  
 ※今回のワークショップである程度明らかになった

**将来めざす姿・目標**

- ・美しい和歌の浦の景観を未来に引き継いでいきたい
- ・観光によるまちづくりと生活によるまちづくりが、景観というキーワードで緩やかに繋がった形を目指したい

【2. 阻害するものに対してどう対応していくのか?】  
 ・廃旅館、空き家などについてどう対処するか?  
 ・所有者とどう話し合っていくのか? など

**今ある悪いものの改善には行政主導の対応を求める**

・景観を阻害する物件は行政が主導で規制・誘導に取り組む必要があるのではないか(地域住民が頑張るだけではどうしようもない)

・時間がかかるのはわかるが「今、悪いモノ」をどう扱うかは重要課題

・迷惑になる用途が入ってきたり景観を阻害するような建物が建築されないようなルールがあれば良いのでは

・旅館の建替えや新築についてはある程度のメリットを用意するといったことも必要かもしれない(進出意欲を削がない施策が必要か?)

・廃屋を買い取るファンドのような考え方はどうか、地域だけでお金が集まらなくても金額として算出して、問題と一緒に発信して行くことは大切なのは

・建て替え時だけでなく今後出てくることも想定して、景観を阻害しないようなルールを設けておく(市)

・対処方向を検討する(ただし時間を要する)(市)

→生活のための景観なら、防災などの、現在直面している問題の解決につながるような取り組みに

→まちづくりを考えるにあたって、「生活を守ることも大切(漁港のまちなみは漁業があって成り立つ)

【3. 場所により異なる景観の特徴をどう守っていくのか?】  
 ・それぞれでふさわしいあり方、ルールをどう考えるか?  
 ・地域での良さを再確認し、生活や暮らしと共生したあり方をどう考えるか? など

**(1) 特徴に応じてエリアを区切り(ゾーニング)目標・ルールを決める**

**和歌浦地区は多用途が混在している**

・和歌浦地区は多用途が混在している、天橋立のようにいくつかのゾーンで考えるべき

・自然景観は共通財産として認識されているが、人間の営みが関わるところは歴史的な背景も違うのでできている景観も違うから、個々の特色を生かしたルールを考えるべき

・景観的に有名どころ(倉敷など)は思い浮かべられるイメージがあるが、和歌の浦全体は無い

・和歌浦/新和歌浦は歴史的な雰囲気、雑賀崎/田野はまとまりある漁村集落、といった漠然としたイメージはあるが、足を運んでまで行きたくなる魅力かどうか

・雑賀崎の景観は「エーゲ海」、田野は「純和風の漁村」、など、テーマをしっかりと打ち出していくのはどうか

**田野・雑賀崎**

- ・海と港の景観がきれい(遊びにくる人も多く海を眺めながらのビールが美味しい)
- ・朝の漁船の出入りの風景、エンジン音も含めて良い景観
- ・漁村であることが地域のアイデンティティであり、漁業が存続することが重要

**新和歌浦**

- ・県の景観支障物件条例ができ、廃業旅館等で動きがある模様
- ・海への眺望を活かして高級住宅に建て替わっているところも

**和歌浦**

- 【市町川・あしべ通り・干潟沿い】  
 ・御手洗池から不老橋・干潟までは見どころをつなぐ重要な道、歩きたくなるみちになってほしい
- 【市町川南側】  
 ・比較的新しい住宅地で建築の年代が揃っており景観もまとまっている
- 【市町川北側】  
 ・古い建物や興味深い建物が点在、資源として掘り起こしていくと、地域の魅力アップにつながる

・田野は瓦屋根、雑賀崎は陸屋根の建物が多い印象、それを逆手にとって特徴づけていく方法もある

・廃屋が多いが使われなくなった後のリスクを考えると大きな建物は不要

・屋根の色はルールを決めても良い

・視点場として重要な県道沿いなどでは眺めを確保するよう配慮が必要

・「変な建物を建てたりしないで」という注意を促す程度でいいのではないかと

・和歌の浦の見どころをつなぐ大切な道なので、沿道の一皮だけでも一定のルールを決め、面する建物でまちなみをつくってほしい

・奠供山や妹背山からの「見下ろす」眺望を意識して、高さや屋根の色についてルールが必要

・特にルールは定めなくても、魅力的な景観を発見する活動からアプローチすべき

・雑賀崎・田野・和歌浦のそれぞれの特徴に応じた目標・ルールづくりを行う(住民、市)

・特に重要なところ(市町川沿い、あしべ通り沿い、干潟沿い)については、今後の建て替えなどに際してまちなみが整うようなルールづくりを行う(住民、市)  
 ※景観重点地区の中でも重要な場所として明確に位置付けをしておく、整備もいつかできる可能性がある

・今後、住民や利害関係者などをまじえしっかりと話し合っていく必要がある

→住んでいる人が楽しめるような景観まちづくりでありたい

・「景観」は地区の枠や行政と地区との距離を超える、共通言語になるもの

・昔のまちづくりは「3K(環境・観光・健康)」を考えていたが、今はこれに「雇用・経済」が加わって5Kを考えないといけない・・・地域の活性化につなげたい

・地域の人が参加し、住み続けたいと思ってもらうまちをめざしたい、そのためにまちづくりを担う人づくりが重要

**(2) 生活・暮らしのルールづくりも考える**

・建物の規制・誘導だけでは必ずしも地域を良くすることにはつながらない、地域の人たちが気持ち良く暮らすことのできる「生活のルール/くらしのルール(作法)」のようなものも考えていく必要

・隣近所でもできることも考えるべき(例えば、花を飾るような暮らしのルールなど)、地域での維持・管理も必要

・和歌の浦でポイ捨て禁止条例のようなルールを設け、清掃活動に加えて良好な環境づくりをしていきたい

・クリーンアップ活動は輪が広がりつつあり、ゴミのない美しいまちになっている

・ポイ捨てに対しては地域住民が「宣言」(憲章のようなもの)をつくった方が、より効果的な対策になると思われる

・クリーンアップ和歌の浦等の活動を着実に積み重ねる(住民)

・(機運が高まれば)地域で宣言を発信する(住民)

・重要な場所では、適切な維持管理を行う(住民・市)

**(3) ルールを継続して運用する**

・「景観パトロール」を随時行って、地域の景観を見守る存在がいれば良い

・地元の事情をよく知る人が支所において景観についての専門的なアドバイスをしてくれれば、身近に相談できて心強い

・建設業者がルールを熟知しておいて、建築主に対してアドバイスするのが理想的

・神戸魚崎のように運用委員会を設け、建築行為に要望する仕組みはあっているか(会を設けるなら資金等課題も)

・ルールを作っておしまいにならないよう、景観について引き続き話し合う場をつくる(住民・市)

(2) 雑賀崎・田野・和歌浦地区 景観まちづくりの取り組み方向 ~②活動の場づくりを考える~

意見の抜粋

具体的アクション

将来めざす姿・目標

【4. 景観まちづくりの活動をどう継続していくのか?】

- ・いろいろな活動があり、どう連携させていくか?
- ・保全に向けてどう市と市民が連携していくか? など

(1) 身近な取り組みを継続する

- ・身近なところと景観がつながる取り組みが大事で、クリーンアップも小さなところから積み重ねていっているのであり、それらを継続していく必要、住民が参加するための機会としてクリーンアップのような継続的な活動は重要な意味がある
- ・小さな組織(自治体単位など)での活動は出来ないか

(2) 和歌の浦全体のプラットフォームをつくる

- ・和歌の浦の活動が次の段階へ移行しようとしており、活動を継続するには、情報を発信したり、活動している人をつなげたりする仕組みが必要(ただ、既存の活動に屋上屋を重ねるような取り組みであってはならない)
- ・地域でやる気がある人々をサポートする仕組みも必要
- 個々の活動を無理にまとめようとしても主導権争いになりかねないので、1年に1回程度ゆるやかに集まり意見交換をする場があれば良く、まさしくこのワークショップがその場ではないか
- 行政と住民をつなげる場があればよく、景観の協議会のようなものは出来れば行政も意見を聴きやすい、目的別に組織、ワーキンググループを作って、検討してはどうか(設備のこと、観光のこと等)
- 活動をどう支えるか(人・もの・金)が重要。ボランティアだけでは限界。活動を支援する事務局機能が課題。
- こうした場を誰がやる、呼びかけるのかも課題。市が呼びかけるのか、地域の有志が呼びかけるのか。
- コミュニティスペースのような、目的を持った人が集まり情報交換できる施設がほしい。
- 外の人材・機関と連携する形もありで、和歌祭は和歌山大学と連携している
- 企業も地域との共生が重要視されているが、沿岸部の企業なども協力してくれないか

(3) 地域の意見を反映するしくみを考える

- ・地元住民や訪問者などいろいろな見方から解決策を探していく必要がある、想いをもった人の意見を聴くしくみが必要
- ・誰がどうやってやるのか、が大事で、とりわけ外から眺めている分には良いが、地区の中に入ると気になるところはある、それをどうするか
- ・地区の住民がこうしたことに興味を持って、話し合う場を持たないと景観を良くできない、とりわけ漁師さんなど漁業関係者をどう巻き込むか、が難しく、この場にも来てほしいがなかなか参加できていない状況

(4) 市のかかわりを強める

- ・空き家を紹介してこの地域に人を来てもらうという活動をしているが、このような活動は地元の人しかできない、県には担当の課があるが、市にはそういったものはない
- ・行政との関わりをどうするか、行政をいかに活用していくか考えないといけない
- ・行政のアンテナの感度がこれまで低かった、もっと行政にも来てもらうようにこのワークショップを通じて発信すべき

- ・これからが大切であり、そのためにもプラットフォーム的な場が必要なので、交流の場、情報交換の場、地域の団体やグループの連絡会を設ける
- ・和歌の浦全体としてHPやブログを活用しながら情報を発信する

- ・観光によるまちづくりと生活によるまちづくりが、景観というキーワードで緩やかに繋がった形を目指したい

- ・「景観」は地区の枠や行政と地区との距離を超える、共通言語になるもの

- ・これからは「幸福を感じるカンコウ(感幸)」を考えなければいけない、生活者がこの地で満足する、幸せを感じることができれば魅力的な地域にはなり得ない

- ・また、「交流を歓喜するカンコウ(歓交)」という視点もあるか

【5. 地域の良さをどう発信、PRしていくのか?】

- ・訪れてよし、住んでよしの魅力を地域のブランドとしてどう発信するか?
- ・魅力を高めていく方法をどう考えるか? など

(1) 和歌の浦の新たな/効果的な発信方法を考える

- ・自然だけではダメで、付加価値を付けて対外的にPRすべき(漁師町のPRなど)
- ・万葉のイメージとほかのイメージが混在していて、売りが曖昧
- ・鎌倉のような(潜在的に根付いている)ブランド力を時間をかけて醸成していくことが必要
- ・地区の良い点が全く伝わっていない、初めての人はこの地域に足を踏み入れることすらできないのではないのか、PRを考えなければならぬ
- ・せっかく綺麗にしたところをみんなに見てもらえない、PRする取り組みも大切
- ・既にPRツールはたくさんあるが、機能していない、和歌浦のホームページがないので情報が得にくい

- ①ターゲットに応じたPR(性別、世代別、訪問形態別など)
  - ・女性、若者、学生、親子が興味を持つ売り出しを(婚活等)
  - ・滞在形態別にPRする(日帰り型、泊まり型、半住・定住型)
- ②切り口を変えたPR(癒し、健康など)
  - ・流行りの「癒し」のスポットなどのイメージと組み合わせる
  - ・坂が多い分健脚の方が多く、健康によい町としてPR
  - ・老後を見据え新たな暮らしを実現できる場所としてPR
- ③食の名物づくり
  - ・高級感がある「食」の目玉づくり、名物づくりができないか
- ④漁業のブランド化
  - ・漁船から直接魚を買える事ができ話題、漁業の産地直売などはできないか
  - ・獲った魚を旅館で料理する等漁業と旅館(観光業)の連携は

(2) 観光ルート等のPR・整備を行う

- ・「ここに来ればこういう観光ができる」というのをセットでPRしないと足が向かない
- ・歴史的な資源、観光スポットが点在しているが繋がっていない
- ・自然を満喫できる観光ルートの整備/PRが必要、かつてのように遊覧船を定期運航して海から岸の眺めを堪能できれば
- ・観光案内所もどこにあるか分からない、外から来る人はまずアートキューブを訪れるので、そこに設置すべき
- ・灯台の下の駐車場が私有地であるため観光資源として使いづらい、何らかの対策(買い上げる等)ができればよい
- ・魚釣り公園の入り口の販売施設を有効活用する方法を考えたい、支所も拠点として活用できるのでは
- ・「公共交通で利便性向上」「自家用車で来やすい環境整備」「レンタサイクルなど地元をゆっくり回ることができるようにする」といった交通の利便性向上が必要

(3) 地域の伝統や風習、言葉を大切に

- ①地域の人の意識啓発、学習
  - ・歴史的な資源が多くあり祭事も根付いているが、近年はおざなりに、もっと地域の伝統や風習を大切にしている取り組みを
  - ・歴史の重みの勉強が必要、地元の人での勉強会、こどもに地域の冊子を配布、郷土教育が必要では
  - ・夏目漱石、松尾芭蕉、飯尾宗祇などゆかりのある俳人はおり、場所ごとに万葉の歴史をPRする石碑を設置しては
- ②言葉などの文化の継承
  - ・方言のような地域に根差した文化を守ることは重要、漁村の方言などを景観+αで押し出せば特有のブランドに

(4) もてなす人を育てる

- ・地元の住民や活動をしている人が、訪れる人に関わっていければ、それだけで思い出深い場所になる
- ・住民から積極的にあいさつなどしていけば、観光客と地域が関わるきっかけになる
- ・昔と比べて景観が悪くなっているのではなく、人を迎え入れる雰囲気作り、人を育てる人づくりが足りなかったのでは
- ・親しみやすい雰囲気作りが大事で、そのためには一人一人のマナーも含め人を育てていくしくみ(リーダー養成)が必要

- ・観光などとも連携して、和歌の浦の新たな売り出し方を考え、実践する

- ・今後の活動目的、ターゲットとしてはいかに様々な年代を巻き込むか(特に子ども)を考える

- 例:
- ・写生大会、子どもを対象としたまちあるきをして子どもに地域の魅力を感じてもらおう
  - ・市民の愛着の高い和歌の浦のネタを教材化し、学校で和歌の浦について学んでもらう など

- ・「観光」と「まちの活性化」は切りに切れない関係があり、両者の協力は必要不可欠

- ・昔のまちづくりは「3K(環境・観光・健康)」を考えていたが、今はこれに「雇用・経済」が加わって5Kを考えないといけない・・・地域の活性化につなげたい

- ・地域の人に参加し、住み続けたいと思ってもらうまちをめざしたい、そのためにまちづくりを担う人づくりが重要

- ・現在の取り組みも良い部分がたくさんあるので、肯定的なところを強調し、皆が楽しく活動できるように

### (3) 今後に向けて～このワークショップの成果をいかすために

#### 【参加者の感想から】

##### ●自分たちや地域の頑張りを続けていきたい

- ・ずっとボランティア活動をしてきたが、規則はあるが役に立っていないという場面によく出くわした。このルールも形骸化しないようにしてもらいたい。
- ・結局、今回のワークショップで分かったのは、ルールづくりだけでは地域は良くならないということ。そのため、平行して地域で出来ることは地域でやっていくしかない。
- ・和歌の浦にほれ込んでずっと活動してきた。これからも、魅力を伝える活動を続けていきたい。
- ・これまで漠然と参加してきたが、第9回で最終回の今日、自分も当事者なんだと実感が湧いた。自分でできることを考えてやっていきたい。
- ・いろんな意見があるが、住んでいる人が幸せになることが最も重要。そうなるよう取り組んでいきたい。
- ・地域でがんばっている、すごい面々が集まってきている。オールスターは集まっているので、あとは舵取りをする監督が大事。

##### ●もっと幅広く呼びかけていくべき

- ・どうしても観光の話にシフトしがちであったが、当事者がいないなかで話をしても絵に描いた餅になる。参加を呼び掛けても参加してくれないのであれば、その辺を見極めて、生活者の視点に絞って話をしても良かったかもしれない。
- ・今回は、観光に関連する人が参加されなかったが、個別にヒアリングをしてこういった意見に対してどのように考えているかを聞いてはどうか。
- ・この地域では、「観光」と「まちの活性化」は切るに切れない関係がある。そういう意味で両者の協力は必要不可欠である。

##### ●行政も頑張してほしい

- ・我々地域に対しては、「それぞれの主体・団体が連携して…」と言うのだから、行政も縦割りではなく横断的で協力して、この地域の活性化に協力してほしい。
- ・地域の住民や活動している人がプラットフォームを作ろうとしているので、行政も縦割りにならないよう気をつけてほしい。
- ・せっかく何度も集まって話し合ってきたので、それが無駄にならないような形にしたい。行政も真剣に取り組んでもらいたい。

##### ●この場を継続すべき

- ・回を重ねるごとに、何をめざしてやっているのかが少しずつ理解できてきた。これからも続けて行かなあかんと思った。
- ・景観まちづくりの話し合いをしてきたが、具体的なイメージはまだ抱けていない。これからもっと「こんなことしましょうよ！」という具体的な活動イメージを共有していきたい。
- ・このワークショップが、地域の問題をみんなで解決していくきっかけになってくれれば良いと思った。
- ・これまでは総論的に意見を述べてきた。これからは各論に入っていくので、色々な意見がばらばらと出てくると思う。大変だが、地区の枠を超えて一緒にやっていきたい。
- ・これまでの行政とのやりとりは、「陳情」になることが多くて一方的だった。こういうフラットな「意見交換」の場の方が有意義。是非こういう形で他の政策も進めてもらえればありがたい。
- ・良いものは受け継ぎ、改善が必要なものは良くする努力をする、そのためにこの会は大切だと思うので、続けていきたいと思っている。
- ・今回出された意見を踏まえて、「地域」と「行政」の役割分担をしていく必要がある。そういう話をするためにも情報交換の場が必要かもしれない。

#### 【景観重点地区のルールづくりに向けて】

##### (市より)

- ・今回のワークショップでルールの考え方の骨子が出されたので、みなさんに出していただいた意見を考慮しながら、市で検討を行い、地元の住民の方々と説明会等を経た上で、景観重点地区の指定をめざしたい。
- ・その際、ワークショップ参加者の皆さんにはもう一度か二度、ご意見を伺うことになると思うので、ご協力をお願いしたい。

##### (コーディネーターより)

- ・地域ごとに、歴史も生活スタイルも異なるので、ルールを考えて行く際には地域の特徴を考慮して、「眺望/自然/生活」の3つのカテゴリに対して、景観が果たす重要度という面から「強め/弱め」と、ルールの強弱をつけて、つかいやすいルールづくりをすればいいのでは。

#### 【景観まちづくりに向けて】

##### (市より)

- ・景観まちづくりについては、これから盛り上がっていくことを期待している。その中核になるのは、今日来てくださっているみなさんであり、何らかの場ができれば、地区の景観について考えてもらうなどの役割(ミッション)を担ってもらう方が、より盛り上がる・やりがいのある場になるかもしれない。
- ・市はみなさんの景観まちづくりを応援します。みなさんも一緒にやりましょう。

##### (コーディネーターより)

- ・活動には、外部の人が参加しやすい状態にするためにも、何らかの場が必要だと感じた。押しやり引いたりしているだけでは前に進まないの、エイヤ！で中心となる方を決めてしまって、ともかくやれるところからやってはどうか。無理やりみんなから始めるより、やりたい人だけでも良いので、とりあえず始めてみるのが大切だと思う。
- ・和歌の浦は大切な場所ですので、私もみなさんのがんばりに対して何かできることがあれば協力させてもらえればと思っています。